

令和6年度 第6学年総合的な時間の全体計画

1. 学年のテーマ

「地域の伝統・文化と、そこに携わる人々」

2. 学校において定めた総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域や自然環境に関わる学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域や自然環境に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や自然環境の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。	地域や自然環境の中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域や自然環境についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会や自然環境に関わろうとする態度を育てる。また、自分の学びが人の役に立ち、人の喜びが自分の成長を生む相互作用が働くようにする。

3. 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

知識及び技能	知識の概念化	地域の歴史・文化やそこに課題があることを知るとともに、そこに携わる人々の思いを学び、地域の未来像や自分たちの生活と関わりを理解することができる。
	技能の身体化	調査活動や情報収集、表現活動の手順や方法を身に付け、目的や意図に応じて活用することができる。
	探究的な学習のよさの理解	各教科等の知識及び技能を活用した探究活動により、学習のつながりを見いだすことができる。
思考力、判断力、表現力、等	課題の設定	地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究することができる。
	情報の収集	目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりすることができる。
	整理・分析	視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けることができる。
	まとめ・表現	相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現することができる。
	ふり返り	学習の仕方をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。
学びに向かう力、人間性等	主体性・協働性	課題意識をもって、自分なりの方法を工夫したり、他者と協働したりしながら探究活動に取り組もうとする。
	自己理解・他者理解	探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴を理解しようとするとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする。
	自律行動・社会参画	探究活動を通して、自分と地域・自然環境の問題の解決に取り組み、それらを他者に伝えとともに、地域や自然を愛し、自ら進んで関わろうとする。

4. 指導の重点

(1) 理科の学びを活かす

理科授業では、児童が問いを見出し、科学的に問題解決する力を養うことを大切に指導する。そして、探究学習を中心的に行う総合的な学習の時間では、学校ビオトープの自然環境を生かし、理科で学習した内容や方法を活用した学習を行うことができるようにする。ここでは、理科の学習で疑問に思ったことの中から探究課題を設定し、児童自らが学習活動を展開できるようにすることを大切にする。

(2) 「ゆだねる」指導を焦点化して実施

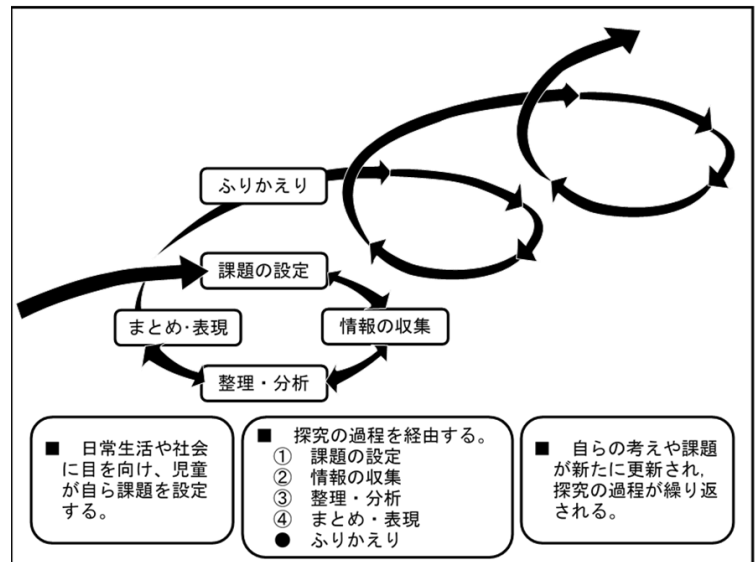
授業に使用する様々な物や事を教師から児童に「ゆだねる」ことをきっかけにして、児童に学習に対して責任を持たせたり、より主体的に学習できるようにしたりする。ここでは、一人一台端末とクラウド、黒板、学習のための道具、思考方法などの学習環境や思考の道具に焦点を当ててゆだねる。

(3) 「ふりかえり」の重視

探究のサイクルに「ふりかえり」の活動を工夫して入れる。児童自身が自分の学習に責任をもって、調整したり、見通しを立てたりできるようにすることが重要である。

(4) その他のポイント

図 「ふりかえり」を重視した探究学習における児童の学習の姿



【学習活動】	【指導方法】	【学習評価】
・ 地域の実態や児童の実態を踏まえつつ、児童とともに探究課題を設定する。 ・ 学校ビオトープを生かした学習活動になるようにする。 ・ 学習発表会など学習成果を表現する場を設定する。 ・ 年間を通して、1つのテーマでの取組を行う。	・ 児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。 ・ 児童が理科との関連を意識できるように指導を行う。 ・ 観察・実験などの直接体験の活動を重視する。 ・ 関連する学習内容を、学習者用端末のロイロノート・スクールに保存し、いつでもふり返ることができるようにする。 ・ 言語により整理・分析したり、まとめ・表現したりする学習を重視する。 ・ 協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。	・ ロイロノート・スクールを活用し、ポートフォリオ評価の充実を図る。 ・ 個人内評価を重視する。 ・ 指導と評価の一体化を充実する。 ・ 授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・ 期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

4. 探究学習全体のデザイン

【単元1 ホタルの情報を集めよう】

課題の設定

- ホタルについてどう思う？
- ホタルの世界に入る！
- ・ホタルについて分からないことを可視化
- ・自分なりのほたるさんを可視化

情報の収集

- ホタルを調べる！
- 「ほたるの夕べ」でアンケートをとろう！
- ・インターネットや本、実物を見る、友と会話しながらホタルの知識を持つ

整理・分析

- 今持っているホタルの知識の整理しよう！
- 「ほたるの夕べ」を経験して思ったことは？
- ・イメージマップをつくり、分類する
- ・みんなホタルを大切に考えてるんだな～～

【単元2 ホタルが育つ環境を調べよう】

課題の設定

- ホタルが住みやすい環境ってどんなものだろう？
- ・ホタルが育つ「食」「住」について考えよう

情報の収集

- 自然の中でホタルが生きているのはどんなところだろう？

理科「生物のつながり」

- ホタルの「食」について調べる

整理・分析

- ホタルが生きる環境について整理しよう！
- ・パソコンを使ってみんなが調べたことを共有する
- ・学校のビオトープに、ホタルが生きているのだろうか～

【单元3 東田辺キッズマートと地球環境】

課題の設定

- SDGsに取り組むキッズマートをしよう！
- ・少しでも動物の命を守る活動に参加したい

情報の収集

- キッズマートに関わる情報を集める！
- ・地元企業サラヤの自然環境保護活動について知る
- ・金融についての説明を受け、知識を持つ

整理・分析

- キッズマートを成功させよう！
- ・各グループごとに、目標販売額を定め、売り値や売り方を考える

【单元4 ホタルが育つ環境にしよう】

課題の設定

- どのようなビオトープにしたらいい？
- ・ホタルが住みやすい環境にするにはどうすればいいかな？

情報の収集

- 現在のビオトープはどうなっているかな？

- 理科「自然とともに生きる」
- ホタルの保護について考える

整理・分析

- ほたるの住めるビオトープにするには？
- ・ほたるが住みやすい環境にするにはどうすればいいかな？

【单元5 つなげようホタルへの思い】

まとめ表現

- みんなに伝えよう！ホタルへの思いを！
- ・ホタルのことを家族に伝えよう
- ・5年生につないでもらいたい

6. 探究学習実施スケジュール

	総合的な学習の時間	関連教科
4月		
5月	↑ ホタルについての情報を集めよう	
6月	↓	
7月	↑ ホタルが育つ環境を調べよう	理科 「生物どうしのつながり」
8月	↓	
9月	↓	
10月	↑ 東田辺キッズマートと地球環境	
11月	↑ ホタルが育つ環境にしよう	理科 「自然とともに生きる」
12月	↓	
1月	↓	
2月	↑ つなげようホタルへの思い	
3月	↓	

5月：地域行事「ほたるの夕べ」を向かえる前に、自分なりの探究課題を明確にできるようにする。ホタルに関して分からないことを可視化することで、探究課題を見出し、今自分たちが持っている情報を整理し、収集する。

（予想される探究課題）

- ・「ほたるの夕べ」をもっとにぎやかにしたい。
- ・ホタルの数をもっと増やしたい。
- ・ずっとほたるの夕べ（伝統）が続いてほしい。毎年見に来たい。
- ・ホタルを近くで見たい。
- ・ホタルを触ってどのように光っているか見てみたい。

7月：ホタルを中心に理科の「生物どうしのつながり」の内容を学習した後、もっと調べてみたいことややりたいことなどを絵や言葉で可視化し、探究課題をより深めたものにする。そして、ホタルの生態や生育環境について、インターネットや本で調べたり、実体顕微鏡を使って実物を観察したりすることを通して、友だちと会話しながら、ホタルに関する知識をまとめる。

10月：校区にある駒川商店街で行う「東田辺キッズマート」の取組にあたって、コラボ授業（環境にやさしい洗剤を開発している地元企業サラヤ）を受け、地球環境についての学びを活かして、環境にやさしい商品を販売するキッズマートの取り組みを行う。

11月：理科「自然とともに生きる」を学ぶとともに、環境を守る取組として学校ビオトープの意義や作成の成り立ちについて調べる。そして、地域の人々の思いが実現する環境になるように、自分たちでできることを考え、実践する。

2月：今後に向け、下級生にホタルのどんなことを伝えるのか、考え話し合う。これまでのホタルの学習を振り返り、環境のことや生命のことを考えることに加えて、卒業生として自分たちがお世話になってきた学校やそこに在籍する後輩たちに、何をすれば役に立つことができるのかを考え、実行する。

第6学年 総合的な学習の時間

単元1 「ホタルの情報を集めよう」

1. 単元の目標

自分たちの住む地域や学校では、ホタルを中心とする行事や学習が受け継がれているが、これから自分たちもホタルとその環境について探究する活動をする上で、自分たちで課題を見つけ、課題解決のために必要な知識・技能を身につけ、課題解決に向けて自分たちにできることはないかを考え、実践していくことができるようにする。

2. 探究課題について

東田辺小学校は、地域とのつながりが強いビオトープがあり、そこにホタルを放ち鑑賞する地域行事「ほたるの夕べ」というお祭りが毎年開かれる。

「ほたるの夕べ」は今から約20年前に、「ほたるという儂い生き物を通して命について考えてほしい」という地域の人々の願いから始まった。その「ほたるの夕べ」でホタルを見ることは子どもだけでなく、地域の人々も楽しみにしている。

ホタルは東田辺の象徴とも言える生き物といえる。「東田辺＝ホタル」という伝統を今後1つの世代で終わらせてしまうのではなく、何世代後の人々も笑顔で伝統を楽しむことができるようにするためにも、持続的な東田辺の環境を考えていくことが必要である。その際に、各教科の学習内容を吟味し、組み合わせながら、教科等横断的に実践していきたい。このホタルの探究を通して、子どもの持つ諸能力の内、理科では「生き物が生きていくためにいい仕組みと働き、自然環境について」の資質・能力を活用、育成することができると思う。

また、今回の探究では、決まりきった正解を求めるだけでなく、状況に応じて自ら責任を持ち、時には友と共に協働して行動を調整し、新たな価値を創造し、課題解決に向かっていかなければならない。自分たちに何ができるかを考えることで、「新たな価値を創造する力」や「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」を育むことができると思う。



3. 指導の重点

視点1：理科の学びを活かす

〈理科の学びからスタート〉

これまで、理科では生物の体の仕組みやその働きについて学んできている。だが、ホタルについての知識としては多くないといえるだろう。そこで、生きて働かせることができる知識としては、どの程度なのか確認するところからがスタートする。

改めてホタルと出会い、ホタルの世界に入る。探究課題をつくるためホタルについての情報を集め、「ほたるの夕べ」に関して地域の人たちがどの様に感じているのかをアンケートで調べ、みんなのホタルへの思いを知ることができる。

視点2：「ゆだねる」指導

〈ICT・クラウド〉

ICT 協働学習支援ツールを活用し、みんなの意見を共有したり、ふりかえりの内容を共有したりするとともに、前時の学習についても容易にふりかえることができ、次の学習に活かすことができる。

〈黒板〉

黒板を使って、イメージマップを児童が中心となって作り、自分たちのホタルについて持っている知識を確認し、話し合い思考することで、整理できる。

〈可視化する〉

一人一人がキャラクター「ほたるさん」を描くことで、ホタルに関する自分のイメージを可視化し、互いに確認したり、評価したりすることができる。

視点3：「ふりかえり」の重視

〈ICTの活用〉

ふりかえりで、子どもたちの意見を協働学習支援ツールの「共有ノート」や「提出箱」の機能を用いて、いつでも子どもたち同士が参考にできるようにする。

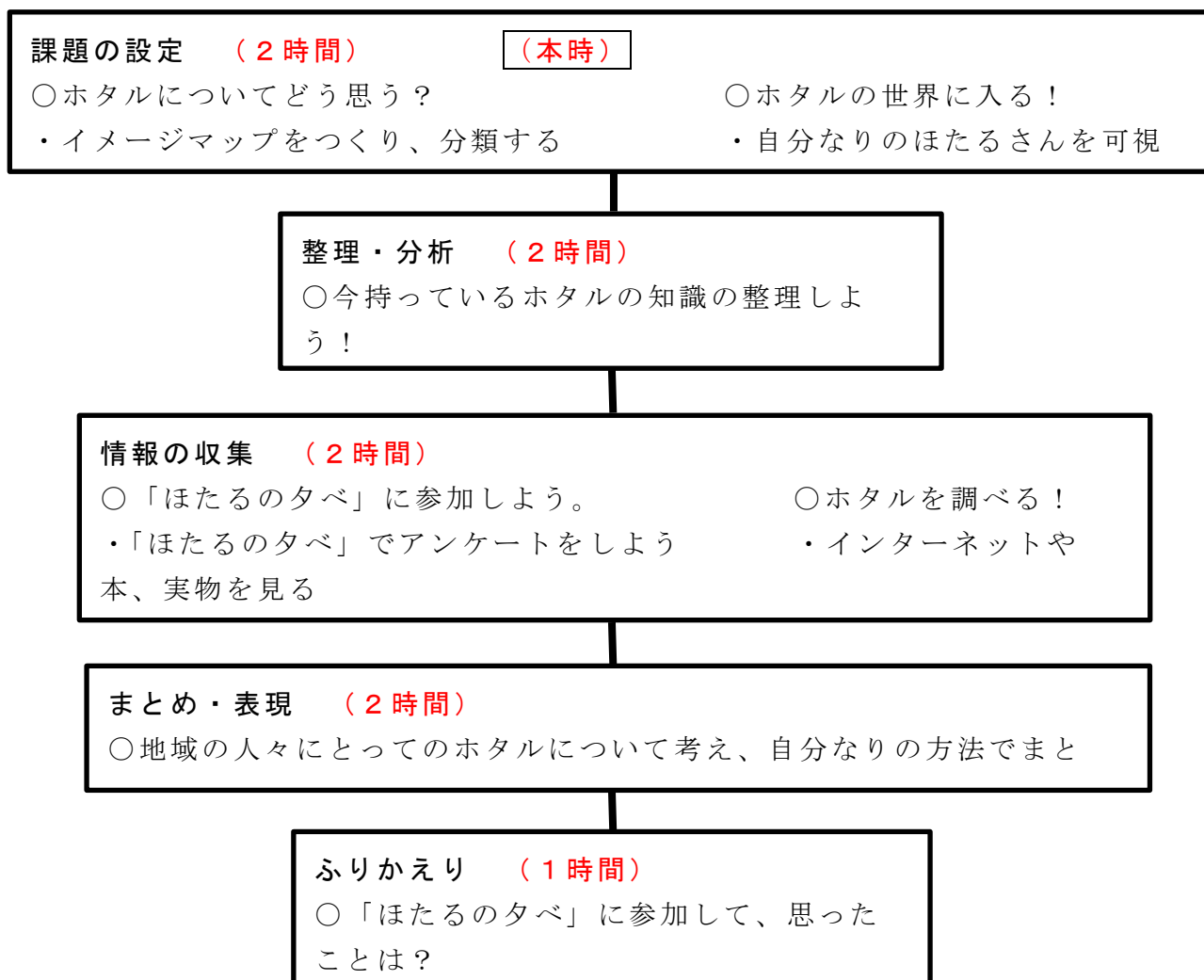
〈見通しに活かす〉

毎授業時間の終わりにその日の学習をふりかえる時間を設けることで、学びを整理できるようにする。前時までのふりかえりの内容を活かして、授業の始めにその日のねらいを確認することで、全体の見通しをもつことができるようにする。

〈個々の成長を確認する〉

個々の意見に対して、「参考になりそう?」、「役に立ちそう?」、「活用できそう?」のようなフィードバックを行うことで、子どもたちが他者の為になっているという有用感を感じられるようにする。

4. 単元のデザイン



5. 本時の授業デザイン

(1) 目標

今持っているホタルに関する知識をイメージマップにし、衣・食・住と心に関連させて整理することで、ホタルに関する疑問や関心を高める。

(2) 学習の積み重ね

	学習活動 ☆ 子どもの思考 (○想定)	支援者の支援 (□想定)
課題の設定	☆昨年度の6年生の発表をふりかえり、本時の学習の見通しを持つ。 ○ホタルについて各自が持っている情報を共有しよう ○情報をイメージマップに整理してみよう！	□課題の設定を子どもたちが行うことができるように、時間や場所を委ねる。 □理科でもイメージマップを活用してのまとめ方を練習しておく。
	今持っているホタルの知識を整理するには、 どのようにすればよいのだろうか？	

情報の収集	☆ホテルについての個々の考えを可視化する ○ホテルについて知っていることと知らないことがわかるようにしよう！ ・イメージマップをつくろう ・知ってることもあるけど、疑問ばかりだ ・まだまだ知らないことがいっぱいや...	□ホテルについてわからないことを可視化することで、次からの思考ツールにする。 □調査する場所、時間を子どもたちにゆだねる。安全面に気を付ける。
整理・分析	☆集めた情報をもとに改善すべき部分をイメージマップにまとめていく ○黒板に書きに来よう！ ○名前シールを使おう！ ○生物の体の仕組みやその働きの仲間ごとに色を変えよう！	□自分事として捉えられるように、情報を仕分ける手段をゆだねた。 □仲間分けしたグループごとの名前を理科的な言葉で表す。支援者がまとめる。
まとめ・表現	☆気づいたことを話し合う ○ホテルのイメージを「衣・食・住・心」で分けることができるね ○ホテルについての疑問が多くなった ○実際にビオトープを見に行きたいね	□子どもたち自身がまとめを作りやすいように色分けして、項目を作る □問題を自分事として捉えられるようにするために、ほたるをなぜ育てるのか？の価値づけを行った。
ふりかえり	☆協働学習支援ツールを活用して、ふりかえりを行う。 ○次はホテルのことを調べたいなあ ○次回から取り組もう！	□ふりこタイム+の観点でふりかえりを行う。 □協働学習支援ツールを活用して、可視化する。



第6学年 総合的な学習の時間

単元2 「ホタルが育つ環境を調べよう」

1. 単元の見どころ

地域行事「ほたるの夕べ」を向かえ、自分たちの住む地域や学校では、ホタルを中心とする行事や学習が受け継がれていることを知り、自分なりの探究課題を明確にできるようにする。ホタルを中心に理科の「生物と環境」の内容を学習した後、ホタルが育つ環境に関して分からないことを可視化することで、探究課題を見出し、今自分たちが持っている情報を整理し、収集することができるようにする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 東田辺の地域には、ホタルに関わる行事があり、人々の努力や工夫によって支えられ、続いていることを理解している。	① ホタルとのつながりや地域の人々の願いについて、自分たちで課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持ってふりかえりながら追究している。	① 東田辺でのホタルについて学んだことを他者のために役立てようとしている。
② 図書資料やインターネットでの検索、インタビューやアンケート調査など、目的に応じた情報収集の仕方を考え、適切に実施している。	② 収集した多様な情報を、整理・分析し、ホタルとのつながりについて自分たちにできることを考えている。	② 他者のために自分の学習状況を自覚し、学習をふりかえり、次の見通しを考え、実行しようとしている。
③ ホタルの学習を通して、命の大切さ、生命の尊さを理解する。		③ ホタルとのつながりに対して関心を持ち、その方法を自分なりの工夫をしながら考えたり見つけたりしている。

3. 指導の重点

視点1：理科の学びを活かす

〈理科の学習と関連させる〉

ホタルの「食」については、理科単元「生物のつながり」の中で行い、生き

物の食う・食われる関係について学習することで、ホタルについて学ぶ意欲につなげることができる。

地域の人たちのホタルへの思いから、ホタルが住みやすい環境などについて調べる探究学習につなげることができる。

視点２：「ゆだねる」指導

〈ICT・クラウド〉

ICT の協働学習支援ツールでの調査資料や意見の共有、ふりかえりの提出・共有等使う事で、前時の学習を容易にふりかえることができ、次の学習に活かすことができる。

〈黒板〉

黒板に学習の進行状況を表すことで、全体の進捗について考えることができる。

ディスカッションの内容を黒板に表すことで、思考を整理できる。

それぞれのグループの調査成果を掲示し、学級全体で共有するのに活用できる。

〈必要な道具〉

自分たちで必要だと考えたもの（ホワイトボードや画用紙などが考えられる）を活用することで、意欲的に活動できる。

〈思考方法〉

思考ツールを活用することで、自分たちの意見や考え、思いを比較したり、評価したり、統合したりすることができる。

〈ゴールの想定〉

学びを他者のために生かせるようにするゴールを想定することで、見通しをもって学んでいくことができる。

視点３：「ふりかえり」の重視

〈見通しに活かす〉

毎授業時間の終わりにその日の学習をふりかえる時間を設けることで、学びを整理できるようにする。前時までのふりかえりの内容を活かして、授業の始めにその日のねらいを確認することで、全体の見通しをもつことができるようにする。

〈個々の成長を確認する〉

個々の意見に対して、「参考になりそう？」、「役に立ちそう？」、「活用できそう？」のようなフィードバックを行うことで、子どもたちが他者の為になっているという有用感を感じられるようにする。

4. 単元のデザイン

課題の設定 (2時間)

(本時)

- 私たちは、ホタルについて「何」を学ぶ？
- ・ホタルが育てることを通して、何を学ぶのか考える

情報の収集 (2時間)

- 自然の中でホタルが生きているのはどんなところだろう？

理科「生物のつながり」

- ホタルの「食」について調べる

整理・分析 (4時間)

- ホタルが生きる環境について整理しよう！
- ・パソコンを使ってみんなが調べたことを共有する
- ・学校のビオトープに、ホタルが生きているんだらうか～

ふりかえり (1時間)

- 今まで調べてきたことを活かして、ホタルを育て、学校の人に発表した

5. 本時の授業デザイン

(1) 目標

「ほたるの夕べ」が継続し、より盛り上がるようにするには、自分たちに何ができるのか考え、これから、ホタルについて何を学ぶのか、整理する。

(2) 学習の積み重ね

	子どもの活動 ☆ 子どもの思考 (○想定)	支援者の支援 (□想定)
課題の設定	☆これまでの学習をふりかえり、本時の学習の見通しを持つ。 ○5年生には、ホタルの知識や、やってもらいたことを伝えたいね。 ○今日は、ホタルの何を学ぶかを、考えよう！	□前時までのふりかえりを活かし、今まで学習したことについて認知させておく。 □仮の他者を設定することで、学ぶ目的を明確にしておく □時間の使い方を子どもと決めておく
	私たちは、ホタルについて何を学んでいけばいいのだろう	

	☆これまで調べたことや考えたことをもとに黒板を使って、整理していく ○私たちが何を学んでいけばいいかを黒板を使ってリストアップしていこう ○教科で分けて書くとわかりやすいかもね ○理科としてのホタルの学びが多いね	□他教科での学びとの関連を意識するように、アセスメントする。 □黒板を子どもたちが思い思いに使うようゆだねることで、これからの学習を自分たちでデザインさせる。 □各教科で学んだ知識で使えるものがあるか、考えるように促す。
整理・分析		
ふりかえり	☆今日の学びをふりかえる。 ○何を学ばばいいか見えてきたぞ ○みんなでデザインできて、学びになったよ ○もっとホタルの・・・を調べてみたい ○次は、どうやってやるのか、どの順番でやるのかを決めたい	□協同学習支援ツールを活用し、各自のふりかえり可視化することで、さらに考えが深まるようにする。 次は、学んでいくことを決めて、チーム分けをしよう！

第 6 学年 総合的な学習の時間

単元 3 「東田辺キッズマートと地球環境」

1. 単元の目標

地球環境に対して配慮した製品開発を行っている企業が、地元にあることを知り、自分たちも地球環境や地域に貢献できる課題を見つけ、課題解決のために必要な知識・技能を身につけ、課題解決に向けて実践していくことができるようにする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 東田辺の近くにある企業が地球環境にやさしい洗剤を開発していることや、その努力・工夫について理解している。	① キッズマートを行うことについて、自分たちで課題を設定し、解決の見通しもって学習計画を立てている。	① 毎時間のふりかえりを通して、自分や学級の学習状況を把握し、課題解決に向けて目的意識をもって関わろうとしている。
② お金についての知識や収益に関わる考えなどについて理解し、目的に応じた販売の仕方を考え、適切に実施している。	② 収集した品物を販売するには、「誰のためになるか」「収益を出すにはいくらで売るか」「どのようにすれば売れるか」など課題解決の視点をもって整理・分析を進めている。	② 自分の考えや思いだけではなく、他者の考えや思いに耳を傾け、受け止めたり、時には別の意見を用いて、自他の考えのよさを生かしながら課題解決に向けて協力して取り組んでいる。
③ 地球環境保全の学習を通して、SDGs の考え方に触れ、環境保全の大切さや生き物の命の尊さを理解する。	③ 「誰に」「何を」「どのように」を意識して商品を販売するか、自分の考えや思いを表現している。	③ 地域とのつながりを通してより自分事として捉え、課題解決に向けて自分なりの考えや思いをもって取り組んでいる。

3. 探究課題について

本校では毎年 6 年生が、校区にある駒川商店街で「東田辺キッズマート」の取り組みを行っている。今年度は、環境にやさしい洗剤を開発している企業サラヤとのコラボ授業を実施することで、理科の内容である地球環境への

影響に関して、学んだことを生かす機会としたい。サラヤが取り組んでいる環境保全の内容を伝えていただき、その学びを活かして、環境にやさしい商品を販売する計画・実施ができるようにする。また、今回は金融のことについて地元の銀行の方にも来ていただいて販売に関わる知識や収益についての考え方にも触れることができるようにしたい。できれば、自分たちで売る野菜を決めて育てることにチャレンジできるようにしたい。さらに、このキッズマートの取り組みには、3年生が社会科の学習の関連で実施する買い物体験を同時に行う。様々な人とのつながりを意識できる取組になるようにする。

4. 指導の重点

視点2：「ゆだねる」指導

〈ICT・クラウド〉

ICT 協働学習支援ツールを活用し、みんなの意見を共有したり、ふりかえりの内容を共有したりするとともに、前時の学習についても容易にふりかえることができ、次の学習に活かすことができる。

〈必要な道具〉

商品を売るために必要だと考えたものを自分たちで活用することで、意欲的に活動できる。

〈協働的に思考する〉

- ・各グループで、「この商品はどんな良いことがあるのかな？」と投げかけることで、子どもたちが価値づけし、値段を決めていくようにする
- ・多種多様な意見を比較・統合していくことで、より現実的で、効果的な対策を考えられることができるようにする

視点3：「ふりかえり」の重視

〈ICT の活用〉

ふりかえりで、子どもたちの意見を協働学習支援ツールの「共有ノート」や「提出箱」の機能を用いて、いつでも子どもたち同士が参考にできるようにする。

〈見通しに活かす〉

毎授業時間の終わりにその日の学習をふりかえる時間を設けることで、学びを整理できるようにする。前時までのふりかえりの内容を活かして、授業の始めにその日のねらいを確認することで、全体の見通しをもつことができるようにする。

〈個々の成長を確認する〉

個々の意見に対して、「参考になりそう？」、「役に立ちそう？」、「活用できそ

う？」のようなフィードバックを行うことで、子どもたちが他者の為になっているという有用感を感じられるようにする。

4. 単元のデザイン

課題の設定 (2時間)

- SDGsに取り組むキッズマートをしよう！
- ・少しでも動物の命を守る活動に参加したい

情報の収集 (2時間)

- キッズマートに関わる情報を集める！
- ・地元企業サラヤの自然環境保護活動について知る
- ・金融についての説明を受け、知識を持つ

整理・分析 (4時間) (本時)

- 地球環境のことを大切に考えてもらうキッズマートにしよう！
- ・各グループで目標販売額を定め、売り値や売り方を考える

まとめ・表現 (4時間)

- キッズマートを成功させよう！

ふりかえり (1時間)

- 今回の学びを、次の学習に生かそう！

5. 本時の授業デザイン

(1) 目標

環境保全に取り組むことの重要性や、環境にやさしい製品のことを知ってもらうための方法を考え、キッズマートの活動に取り入れるようにする。

(2) 学習の積み重ね

	子どもの活動 ☆ 子どもの思考 (○想定)	支援者の支援 (□想定)
課題の設定	☆地球環境について考えた前回の学習をふりかえり、本時の学習の見通しを持つ。 ○キッズマートで環境問題にも取り組もう！	□課題の設定を子どもたちが行うことができるように、時間や場所をゆだねる。 □前時までのふりかえりを活かすことができるように、協同学習支援ツールを活用する。
	地球環境のことを大切にすることを考えてもらうには どうすればよいのだろうか	

情報の収集	☆前時までに得た情報を各自で確認し集める ○環境にやさしい洗剤があった ○オラウータンを守っているんだね	□協同学習支援ツールを活用し、前時までの情報を確認できるようにする。
整理・分析	☆集めた情報をもとに、黒板にみんなの意見をまとめる ○環境にやさしい洗剤を販売したい ○環境保全に取り組んでいる企業の努力も伝えたいな ○地球環境の大切さも分かりやすく伝えよう	□自分事として捉えられるように、黒板をゆだねる。 □学級全体で考えをまとめ、その後はグループごとに分かれて考えるようにする。
ふりかえり	☆協同学習支援ツールを活用して、ふりかえりを行う。 ○今回の学習では伝えたいことがだいたい決まったから、次回はそのために何か作りたい ○何ができるか考えておこうかな？ ○まだまだ時間が必要になりそうだ！	□ふりかえりを、協働学習支援ツールを活用して可視化する。
	地球環境にやさしい洗剤も売ることにして、 その製品や企業のことをアピールしよう！	

第6学年 総合的な学習の時間

単元4 「ホタルが育つ環境にしよう」

1. 単元の目標

自分たちの住む地域や学校で、ホタルを中心とする行事や学習が受け継がれていることを知り、それらを探究する活動を通して、そこに関わる人々の思いや願いを理解するとともに、自分たちで課題を見つけ、課題解決のために必要な知識・技能を身につけ、課題解決に向けて自分たちにできることはないかを考え、実践していくことができるようにする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 東田辺の地域には、ホタルに関わる行事があり、人々の努力や工夫によって支えられ、続いていることを理解している。	① 「ホタルの伝統をつなぐ」ことについて、自分たちで課題を設定し、解決の見通しをもって学習計画を立てている。	① 毎時間のふりかえりを通して、自分や学級の学習状況を把握し、課題解決に向けて目的意識をもって関わろうとしている。
② 図書資料やインターネットでの検索、インタビューなど、目的に応じた情報収集の仕方を考え、適切に実施している。	② 収集した情報を、課題解決に向けて、「実現可能か」「誰かのためになっているのか」「課題解決に繋がっているのか」等の視点をもって整理・分析を進めている。	② 自分の考えや思いだけではなく、他者の考えや思いに耳を傾け、受け止めたり、時には別の意見を用いて、自他の考えのよさを生かしながら課題解決に向けて協力して取り組んでいる。
③ ホタルの学習を通して、命の大切さ、生命の尊さを理解する。	③ 学習したことを多くの人にわかりやすく伝えるために、「誰に」「何を」「どのように」を意識して自分の考えや思いを表現している。	③ ホタルと地域のつながりについて、自分事として捉え、課題解決に向けて自分なりの考えや思いをもって取り組んでいる。
		④ 課題解決をする際に、ジレンマを乗り越え、より妥当な課題解決をすることができる。

3. 指導の重点

視点2：「ゆだねる」指導

〈ICT・クラウド〉

ICT の協働学習支援ツールでの調査資料や意見の共有、ふりかえりの提出・共有等使う事で、前時の学習を容易にふりかえることができ、次の学習に活かすことができる。

〈黒板〉

黒板に学習の進行状況を表すことで、全体の進捗を可視化する。

それぞれのグループの調査成果を掲示し、学級全体で共有する。

〈必要な道具〉

ホワイトボードや画用紙など自分たちが必要だと考えたものを活用することで、意欲的に活動できる。

〈思考方法〉

思考ツールを活用することで、自分たちの意見や考え、思いを比較したり、評価したり、統合したりすることができる。

視点3：「ふりかえり」の重視

〈可視化する〉

子どもたちの意見を協働学習支援ツールの「共有ノート」や「提出箱」の機能を用いて可視化することで、いつでも子どもたち同士が参考にできるようにする。

〈見通す・ふり返る〉

毎授業時間の始めに、その日の目標や流れを全体で確認することで、全体の計画を見通すことができるようにする。

毎授業時間の終わりにその日の学習をふりかえる時間を設けることで、学びを整理できるようにする。

〈個々の成長を確認する〉

子ども同士が個々の意見に対してフィードバックを行うことで、自分が他者の為になっているという有用感を感じられるようにする。

4. 単元のデザイン

課題の設定 (2時間)

- どのようなビオトープにしたらいい？
- ・ホタルが住みやすい環境にするにはどうすればいいかな？

情報の収集 (4時間)

- 現在のビオトープはどうなっているかな？

理科「自然とともに生きる」

- ホタルの保護について考える

整理・分析 (2時間)

(本時)

- ホタルの住めるビオトープにするには？
- ・ホタルが住みやすい環境にするにはどうすればいいかな？

ふりかえり (1時間)

- 今回の学びを、次の学習に生かそう！

5. 本時の授業デザイン

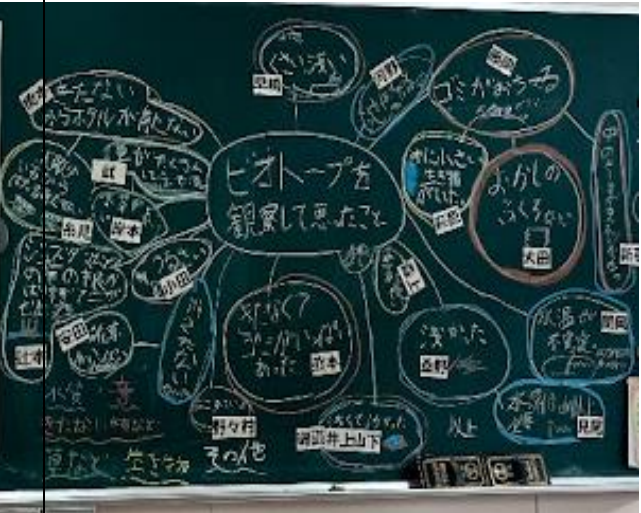
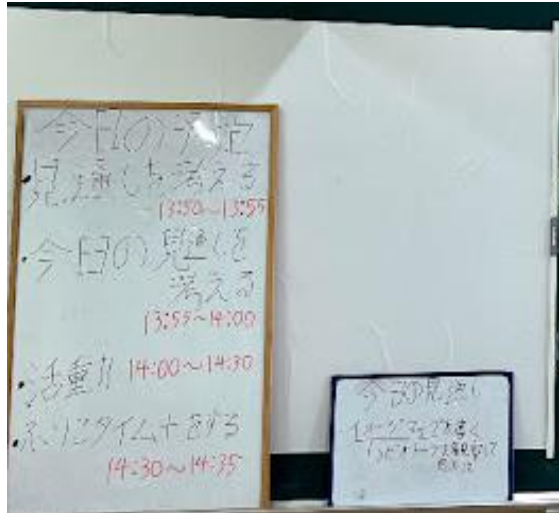
(1) 目標

実際のビオトープを観察し、環境についての項目毎に変更すべき箇所について、イメージマップを活用してまとめる。

(2) 学習の積み重ね

	子どもの活動 ☆ 子どもの思考 (○想定)	支援者の支援 (□想定)
課題の設定	☆前時までの学習をふりかえり、本時の学習の見通しを持つ。 ○前回ビオトープを観察して、得た情報を共有しよう。 ○情報をイメージマップに整理してみよう！	□課題の設定を子どもたちが行うことができるように、時間や場所を委ねる。 □前時までのふりかえりを活かすことができるように、協働学習支援ツールを活用する。
	ホタルが住みやすい環境にするにはどうすればいいのだろうか？	

整理・分析	☆集めた情報をもとに改善すべき部分をイメージマップにまとめていく ○黒板にみんなの意見をまとめよう！ ○名前シールを使おう！ ○出てきた改善点を仲間分けしよう！ ○分かりやすいように色分けをして、整理しよう！	□自分事として捉えられるように、情報を仕分ける手段をゆだねる。 □仲間分けしたグループごとの名前を理科的な言葉で表す。
まとめ・表現	☆ホテルが住みやすい環境をまとめよう。 ○どの項目から取り組もうかな？ ○実際にビオトープを見に行こう！！	□子どもたち自身がまとめを作りやすいように色分けして、項目を作る □問題を自分事として捉えられるようにするために、ホテルをなぜ育てるのか？の価値づけを行う。
ふりかえり	☆協同学習支援ツールを活用して、ふりかえりを行う。 ○今回の学習では改善すべき点がいっぱい出たな。次回にもう少し考える時間が欲しい。 ○どこまで予算で賄えるかな？ ○まだまだ調査が必要だ！	□ふりかえりを、協働学習支援ツールを活用して可視化する。
	今のビオトープの現状を理解することができた。 次回の学習では改善に向けて、チーム分けを行う！	



第 6 学年 総合的な学習の時間

単元 5 「つなげようホテルへの思い」

1. 単元の目標

これまでの探究学習で学んだことの発表を通して、ホテルに関わってきた自分たちの思いや願い解決に向けて自分たちでしてきたことを表現し、課題解決の達成感を感じることができるようにする。

2. 指導の重点

視点 1：思考ツールをゆだねる

〈ICT・クラウド〉

ICT の協働学習支援ツールでの調査資料や意見の共有、ふりかえりの提出・共有等使う事で、前時の学習を容易にふりかえることができ、次の学習に活かすことができる。

〈黒板〉

黒板に学習の進行状況を表すことで、全体の進捗について考えることができる。

ディスカッションの内容を黒板に表すことで、思考を整理できる。

グループの調査成果を掲示し、学級全体で共有するのに活用できる。

〈必要な道具〉

自分たちが必要だと考えたもの（ホワイトボードや画用紙などが考えられる）を活用することで、意欲的に活動できる。

〈ゴールの設定〉

学びのゴールとして学習発表会を設定し、これまで学んできたことを発表する機会を設ける。

視点 3：「ふりかえり」の重視

〈単元全体を振り返る〉

これまで学んできたことをふりかえる時間を設けることで、学びを整理できるようにする。

〈個々の成長を確認する〉

頑張ってきたことに対してフィードバックすることで、子どもたちが他者の為になっているという有用感を感じられるようにする。

3. 単元のデザイン

課題の設定

(2時間)

○みんなに伝えよう！ホタルへの思いを！！

- ・学習発表会で、多くの人に伝えたい

情報の収集、整理・分析

(4時間)

○学習発表会を成功させよう！

- ・伝える相手のことを考えて、伝える情報を集める
- ・家族には、「ほたるの夕べ」のことを伝えたいな
- ・5年生も実践したくなるように伝えることを考えよう

まとめ・表現

(4時間)

(本時)

○各グループで発表内容と方法を吟味し、まとめ、工夫して表現する

- ・家族にうまく伝えられたかな
- ・これからも、学校でホタルが育ってほしいな
- ・地域の人にも広げたいな

ふりかえり

(2時間)

○今回の学びの成果を、中学校の学習や生活に生かそう！

4. 本時の授業デザイン

(1) 目標

ホタルについて調べたことや、ビオトープの環境について改善したことなど、これまでの学習成果を家族や下級生に伝える内容と方法を考え、まとめることができるようにする。

(2) 学習の積み重ね

学習の積み重ね		
	子どもの活動 ☆ 子どもの思考 (○想定)	支援者の支援 (□想定)
課題の設定	☆これまでの学習をふりかえり、学習発表会での見通しを持つ。 ○グループで話し合って発表内容と表現の仕方を考えよう！	□協働学習支援ツールを活用し、前時までのふりかえりができるようにする。 □子どもたちに発表方法をゆだねる。
	探究学習の成果を発表するにはどうすればいいのだろうか？	

まとめ・表現	☆学習発表会で発表する内容とその方法を考える。 ○各グループで発表内容と方法を決めればいい ・頑張って調べたことを、家族にうまく伝えたいな ・もっとホタルが育つ学校になってほしいことも伝えたい ・地域の人にも広げたいな	□学習の目的としてきたことが達成できそうなことを捉えられるように、価値づけを行う。
ふりかえり	☆ふりかえりを行う。 ○学習発表会までにできることはないかな。 ○まだまだ時間が足りないな！	□協働学習支援ツールを活用し、ふりかえりを可視化する。

学習発表会に向けて準備することができた。

他のチームの発表も聞いてみたいな！

○ 学習発表会の様子



5. 全単元を振り返って

(1) 子どもの振り返りから

「知識及び技能」に関わること	「思考力,判断力,表現力等」に関わること	「学びに向かう力,人間性等」に関わること
○理科と総合で繰り返しホタルの学習をすることで、東田辺地域の伝統を守るために、努力や工夫が行われていることが分かった。 ○探究学習で、目的に応じた情報収集の仕方を考え、適切に実施する機会をたくさん経験した。また、その力を総合的な学習だけではなく、理科などの教科でも活かすことができた。 ○ホタルの学習を通して、命の大切さや尊さに触れ、少しだが命について考えることができたと感じる。	○今回の探究の学習を通して、自分たちで課題を設定し、解決の見通しをもって学習の計画を立てることができた。 ○収集した情報を、課題解決に向けて、「実現可能であるか」「誰かのためになっているのか」「課題解決に繋がっているのか」等の視点をもって整理・分析を進め、解決に必要な情報を用途に分けて使うことができた。 ○学習したことを多くの人にわかりやすく伝えるために、「誰に」「何を」「どのように」を意識して自分の考えや思いを表現することができた。	○毎時間のふりかえりを通して、自分や学級の学習状況を把握し、課題解決に不足しているところをメタ認知することができた。 ○自分の考えや思いだけではなく、他者の考えや思いに耳を傾け、受け止めたり、時には別の意見を用いたりして、自他の考えのよさを生かしながら課題解決に向けて協力して取り組むことができた ○他の学年や地域の人たちにもっとホタルに興味をもってもらうためにホタルのことを調べ、発表に向けて取り組むことができた。 ○課題解決をする際に、ジレンマを乗り越え、より妥当な課題解決を模索することができた。

(2) 指導者の感想から

今回の探究は、約1年間かけて行ってきた。今回の探究で成果として得たものが2つ、課題も2つ残ることになった。

1つ目の成果は、見通しと振り返りの習慣化と価値づけすることができたことである。今回の探究では、毎時間の導入部分で学習（本時）の見通しを立て、終末部分でふりかえりをするようにした。また、見通しやふりかえりは何のた

めにするのかということは何度も考え、子どもが発見して、授業の中で活用し、価値づけてきた。そうすることで、子どもたちにも定着していき、支援者が指示する前から、「今日は〇〇について考えよう」と見通しを立てたり、「今日はここまでしかできなかったので、次の時間には〇〇しよう」などのふりかえりをしたりする子どもたちも増えてきた。

2つ目の成果は、「自分たちで学習を作り上げる責任感と達成感」である。この探究学習では自分たちで課題を設定し、計画を立て、課題解決に向けて取り組んできた。計画、実践、ふりかえりをくりかえし行う中で、課題を自分事として捉えられるようになってきた。自分事して捉えることで、学習意欲がより高まり、主体的に学習に取り組むことにつながったと考える。また自分事として取り組むことで、ふりかえりの際もより具体的に自分たちの活動を見つめ直すこともできるようになり、自己調整的の学習を進めることができた。この経験は理科などの他教科でも活かされるとともに、子どもが自ら考え、学びに向かうことの大切さを改めて感じることもできた。

続いて課題についてである。

課題の1つ目は、「配当時間の難しさ」である。今回の探究のように、子どもたちが課題を設定し、学習の計画を立て実践していくには時間がかかる。6学年での多くの行事に取り組みながら、探究の時間を設定するのはかなり困難であった。より円滑に学習するには、支援者も先を見通して余裕のある計画を持つことや、理科だけでなく多くの教科とも結合させて、より教科横断的に取り組む必要がある。そのためにも、特に学年内でしっかり調整することの大切さを改めて感じた。

課題の2つ目は、話し合い活動が上手く回っていないことである。様々な場面でペアやグループなどによる話し合いを取り入れてきたが、ただ自分の意見を伝え合うだけで、内容を深められる場面が見受けられなかった。ゆだねるだけではなく、役割を分担したり、話し合いが停滞している時に、適切な声掛けをしたりするなど、支援者としての手立ても工夫していく必要性を感じた。

今回の探究を通して、子どもたちにはたくさん力がついたと思う。今後も引き続き、子どもと共に支援者も考え、感じながら、探究学習を行っていこうと思った。